

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-37644

(P2001-37644A)

(43) 公開日 平成13年2月13日 (2001.2.13)

(51) Int.Cl.

識別記号

F I

テーパー\* (参考)

A 4 7 J 31/06

A 4 7 J 31/06

A 3 E 0 6 7

B 6 5 D 77/00

B 6 5 D 77/00

H 4 B 0 0 4

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全3頁)

(21) 出願番号

特願平11-219343

(22) 出願日

平成11年8月2日 (1999.8.2)

(71) 出願人 391066423

長谷見 政輝

東京都小平市喜平町3丁目2番3-303号

(72) 発明者 長谷見 政輝

東京都小平市喜平町3丁目2番3-303号

(74) 代理人 100064012

弁理士 浜田 治雄

Fターム (参考) 3E067 A005 AB24 BA12A EE16

FB17

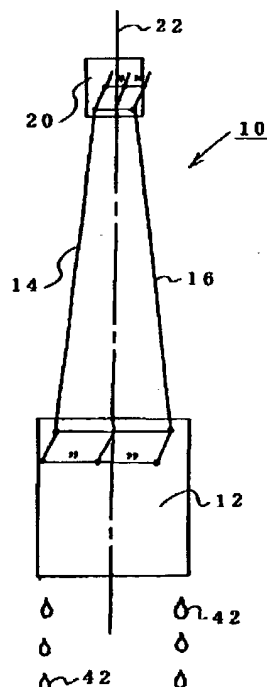
4B004 A003 BA50 CA30

(54) 【発明の名称】 ティーバッグ

(57) 【要約】

【課題】 操作摘み部に吊り紐を介して吊支されるバッグ本体の回動および傾動を制止することができるティーバッグを提供する。

【解決手段】 吊り紐を、バッグ本体および摘み部に対しその共通垂直軸線周りの等間隔離間対称位置にそれぞれ固定される2本一対の吊り紐から構成する。これにより、バッグ本体の回動および傾動が制止されてその吊支姿勢を制御し且つ安定させることができる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 茶葉を収容するバッグ本体と、このバッグ本体の上端縁部に固定されてこのバッグ本体を吊支する吊り紐と、この吊り紐の上端部に固定されて吊支されたバッグ本体を移動操作する摘み部とからなるティーバックにおいて、前記吊り紐が、前記バッグ本体および摘み部に対しその共通垂直軸線周りの等間隔離間対称位置にそれぞれ固定される2本一對の吊り紐からなることを特徴とするティーバック。

【請求項2】 2本一對の吊り紐は、バッグ本体および摘み部に対してそれぞれに固定される独立した紐からなることを特徴とする請求項1記載のティーバック。

【請求項3】 2本一對の吊り紐は、バッグ本体および摘み部内においてそれぞれ接続される連続した紐からなることを特徴とする請求項1記載のティーバック。

【請求項4】 連続吊り紐の接続部は固定式であることを特徴とする請求項3記載のティーバック。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、茶葉を収容するバッグ本体を含むティーバックであって、ティーカップ内に収容した後お湯を注入することによりバッグ本体内の茶葉成分を抽出するティーバックに関する。

## 【0002】

【従来の技術】一般に、ティーバック30（図3参照）は、バッグ本体32とこれを吊支する1本の吊り紐34とおよびこの吊支されたバッグ本体を移動操作する摘み部36とから構成され、そしてその茶葉40を収容する前記バッグ本体32（図4参照）は、茶葉成分の抽出を促進するよう、例えば、筒状の包装材32aを折り重ねたU字状袋体32b、32bから形成されている。すなわち、バッグ本体32によれば、茶葉40とお湯との間の接触面積がU字状袋体32b、32bの間の湯溜り部32cによって増大されるので茶葉成分の抽出が促進され、またその構造も比較的簡単であるので安価に製造される。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来のティーバック30は、上述したようにバッグ本体32が1本の吊り紐34で吊支されているため、バッグ本体32を吊支移動する場合に、このバッグ本体32が吊り紐34（垂直軸線）周りに矢印A方向に回動し且つ水平軸線38周りに矢印B方向に傾動する難点があった。なお、この難点により、ティーバック30をティーカップからソーサ等へ移動する際に、テーブル上などに不慮の水滴（湯茶）42を落下してこれを汚染したり、ソーサ内に湯茶溜りを生じて不潔感を招く等の不都合を発生する。また、この不都合は、バッグ本体32が湯溜り部32cを有する場合等にはその残り湯32dのために一層増大される。

【0004】従って、本発明の目的は、バッグ本体、吊り紐および摘み部からなるティーバックにおいて、吊支されたバッグ本体の回動および傾動を制止することができる、換言すれば、バッグ本体の吊支姿勢を制御し且つ安定させることができるティーバックを提供することにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】先の目的を達成するために、本発明に係るティーバックは、茶葉を収容するバッグ本体と、このバッグ本体の上端縁部に固定されてこのバッグ本体を吊支する吊り紐と、この吊り紐の上端部に固定されて吊支されたバッグ本体を移動操作する摘み部とからなるティーバックにおいて、前記吊り紐が、前記バッグ本体および摘み部に対しその共通垂直軸線周りの等間隔離間対称位置にそれぞれ固定される2本一對の吊り紐からなることを特徴とする。

【0006】この場合、2本一對の吊り紐は、バッグ本体および摘み部に対してそれぞれに固定される独立した紐から構成するか、あるいは、バッグ本体および摘み部内にそれぞれ接続される連続した紐から構成される。また、連続吊り紐の接続部は、好適には、固定接続とする。

【0007】このように、本発明のティーバックは、バッグ本体を摘み部に対して2本一對の吊り紐で吊支するよう構成したので、バッグ本体に対する拘束作用が発揮されて、バッグ本体の吊支姿勢を制御し且つ安定させることが可能となる。この結果、バッグ本体の湯切り（バッグ本体内の残り湯の排除）も可能となり、不慮の水滴の落下等も防止することが可能となる。

## 【0008】

【実施例】次に、本発明に係るティーバックの一実施例を添付図面を参照しながら以下詳細に説明する。

【0009】先ず、本発明の一実施例を示す図1において、ティーバック10は、茶葉を収容するバッグ本体12と、このバッグ本体12の上端縁部に固定されてこのバッグ本体12を吊支する吊り紐14、16と、この吊り紐14、16の上端部に固定されて吊支されたバッグ本体12を移動操作する摘み部20とからなり、前記吊り紐14、16は、バッグ本体12および摘み部20に対しその共通垂直軸線22周りの等間隔離間対称位置にそれぞれ固定される2本一對の吊り紐14、16から形成される。

【0010】なお、吊り紐は、前記2本一對の吊り紐14、16に代えて、図2の別の実施例に示すように、バッグ本体12および摘み部20内においてそれぞれ接続18d、18bされる連続した紐18a、18cから構成することもできる。この場合好適には、接続部18d、18bは固定接続とする。

【0011】また、バッグ本体12は、例えば、図4に示すようなU字状袋体32、あるいは、その他適宜各種

3

のものを適用することができる。

【0012】本発明のティーバッグ10は、バッグ本体12が摘み部20に対して2本一對の吊り紐14、16(18a, 18b)で吊支されていることから、バッグ本体に対する拘束作用が発揮される。すなわち、吊支されているバッグ本体12の回動Aおよび傾動B(図3参照)が制止されてその吊支姿勢が制御され且つ安定する。従って、バッグ本体12をティーカップからソーサ等へ移動する場合には、例えば、摘み部20を介してバッグ本体12をティーカップから水平状態で持上げて(図1)付着湯の水滴42を落下させた後、さらに傾動して(図2)残り湯32dの水滴42を湯切りし、次いでこのバッグ本体12を再び水平状態に保持したうえで(図1)ソーサ等へ移動することにより、不慮の水滴42および/または残り湯32dによるテーブル上などの汚染および/またはソーサ内等の不潔感を可及的に防止することが可能となる。

【0013】以上、本発明を好適な一実施例について説明したが、本発明は前記実施例に限定されることなく、その精神を逸脱しない範囲内において多くの改良変更が可能である。

【0014】

【発明の効果】以上説明したように、本発明に係るティーバッグは、バッグ本体を摘み部に対して2本一對の吊り紐で吊支するよう構成したので、バッグ本体に対する

4

拘束作用が発揮されてバッグ本体の吊支姿勢を制御し且つ安定させることができる。この結果、バッグ本体の湯切り(バッグ本体内の残り湯の排除)が達成されて不慮の水滴の落下等の不都合を防止することができる。

【0015】また、本発明に係るティーバッグは、構造が簡単であるので比較的安価に製造し得る利点を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るティーバッグの一実施例の、バッグ本体を水平位置に保持した状態を示す正面図である。

【図2】本発明に係るティーバッグの別の実施例の、バッグ本体を傾動位置に保持した状態を示す正面図である。

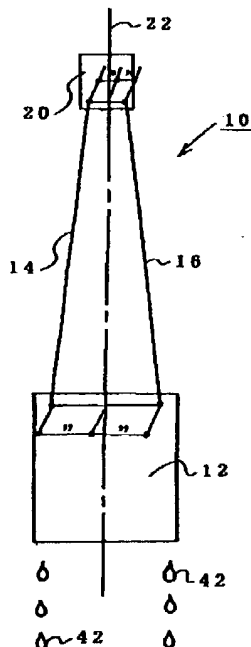
【図3】従来のティーバッグを示す正面図である。

【図4】図3に示すティーバッグにおけるバッグ本体のIV-IV線に沿う断面図である。

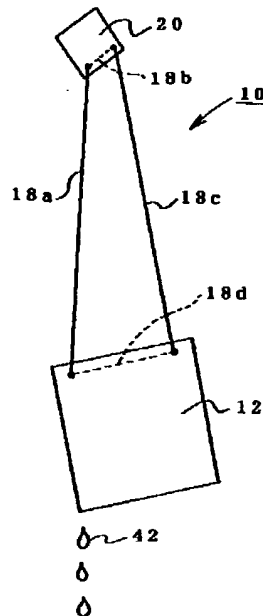
【符号の説明】

- 10 ティーバッグ
- 12 バッグ本体
- 14, 16 吊り紐
- 18a, 18b 吊り紐
- 20 摘み部
- 22 共通垂直軸線
- 42 水滴

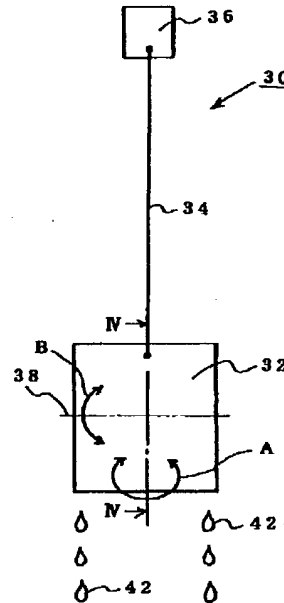
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

